

平成26年度高松矯正管区教誨師研修会研修事業評価委員会議事録

1 開催日時

平成26年7月18日(金) 午前10時から同11時まで

2 場所

高松矯正管区大会議室

3 出席者

(1) 教誨師

高松矯正管区教誨師連盟会長 長尾 恵 澄

高松 刑務所 教誨師 上野 忠 昭

丸亀 少女の家 教誨師 石倉 敬 之

(2) 職員

高松矯正管区成人矯正第二課長 坂本 和 総

高松矯正管区成人矯正第二課事務官 佐伯 拓 也

4 内容

平成26年度事前計画及び研修会終了後に回収したアンケート等に基づき、「平成26年度 事前計画/自己評価書」の自己評価I等について検討した。

5 議事録

- ・ 高松矯正管区長による講演は、参加者に非常に好評であった。教誨師は、矯正施設に足を運んでいても、具体的なことはほとんど知らないもので、矯正施設の実情についての講演は、今後の教誨活動にとっても有益であったと思う。今後の研修会についても、施設の職員等に講演を依頼してもよいのではないか。
- ・ 実践発表を聞いている教誨師は、「他の人はどんな教誨をしているのか」を知りたいと思っている。実践発表者には、教誨を行っての感想や経験から感じたこと等ではなく、自分の教誨の具体的な内容を発表していただいた方がよいのではないか。いつもやっていることを紹介するというテーマであれば、実践発表者も負担が少ないのではないか。
- ・ 実践発表は、発表応援者(施設職員)による発表者の紹介が丁寧になされ、発表者の人となりがよくわかってよかった。
- ・ 実践発表で質問が出ないときは、司会者が質問するとよい。
- ・ 6, 7月の友引の日は各宗団の行事が予定されていることが多く、特定の宗団に所属する教誨師が出席できないということがある。
- ・ 出席者が少ない教誨師会には、積極的に出席してもらえるよう喚起していきたい。
- ・ 研修会と理事会の会場のフロアが異なっていたこともあり、会場がわかりにくかった。建物の何階が会場であるのか、もっとわかりやすく表示す

る必要がある。

6 「平成26年度 事前計画／自己評価書」

平成26年度高松矯正管区教誨師研修大会における「平成26年度事業計画／自己評価書」の(3/5)、当日のアンケート及び事業評価員会出席者の意見を取りまとめて作成した「平成26年度事前計画／自己評価書」の(4/5)及び(5/5)については、別添のとおりである。

別紙・JKA補助事業 平成26年度 事前計画／自己評価書(3/5)

4. 補助事業の事前計画

補助事業				
(1) 受益者 (ニース)	直接的には研修を受けた教諭師、二次的にはより良い教諭を受けることとなる被收容者、最終的には犯罪の少ない社会で安心して生活できる一般国民			
(2) 事業内容	全国統一テーマ及び管区連盟サブテーマに沿った研修大会を開催する。			
事業の新規性または継続の必要性	宗教教諭は、各々教諭師が所属する宗教団・教宗派の教義に則り実施しているところ、国の施策として、再犯防止に向けた総合対策が行われている中、宗教教諭においても、矯正施設における被收容者の再犯・再非行防止に向けて、刑事政策の動向、社会情勢を取り入れた宗教教諭が求められており、また、他の教諭師の活動内容等を踏まえ、より効果的な宗教教諭が必要とされていることから、研修会を開催し、研究・討議することで、宗教教諭の充実強化を図る必要がある。			
	事業の発展性 宗教教諭技術の向上により、被收容者の改善更生への意欲が喚起し、社会復帰に繋がることで、ひいては犯罪の少ない社会が構築される。			
実施計画	予算等	【事業の完了時期】 平成26年7月17日(木) 【スケジュール】 平成25年7月17日(木) 1日間 【予算】 補助金に係る予算:旅費385,000円, 会場費39,200円		
	実施場所	香川県高松市寿町2-4-20 「高松センタービル」 電話:087-821-9574		
実施体制	研修会の開催に際し、実行委員会を組織し、計画的に研修大会を開催する。 基調講演として、外部講師を招へいし、現代社会に関する諸問題について見識を深める。			
(3) 達成目標	事業の実施結果	(指標) 研修会の開催	(目標値) 平成26年度高松矯正管区教諭師研修会を開催する	(具体的内容) 3名の教諭師から、全国統一テーマ及び管区連盟サブテーマに沿った研究発表をさせていただくことにより、他の教諭師の実践や宗教教諭に対する考え方を学ぶ。 矯正の現状と将来像に関する講演を実施し、刑事政策に関する見識を深める。
	事業の成果・波及	(指標) 宗教教諭の充実強化	(目標値) 宗教教諭技術の向上	(具体的内容) 研修会で得た知識や技術を活用し、被收容者の改善更生、社会復帰の一助となる宗教教諭を意識することにより、宗教教諭が、より魅力的なものになり、被收容者の求める宗教教諭の実現に繋がる。
(4) 情報発信	事業の結果	(指標) 研修会の開催	(目標値) 平成26年度高松矯正管区教諭師研修会を開催する	(具体的内容) 研修会の開催について、記録誌を作成し、関係各所に配布する。
	競輪補助金で実施された事業であること	(指標) 研修会の開催	(目標値) 平成26年度高松矯正管区教諭師研修会において明示する	(具体的内容) 研修会の開催に当たり、研修会場及び会場立て看板において競輪の助成金を受けて開催していることを明示する。
(5) 自己評価の体制	研修会修了後、速やかに事業評価委員会を開催する。 参加した研修員の意見を幅広く聴取するため、研修大会に関するアンケートを配布し、評価委員会の参考資料とする。			

別紙・JKA補助事業 平成26年度 事前計画／自己評価書(4/5)

自己評価Ⅰ作成日	平成26年7月18日	作成者	
自己評価Ⅱ作成日		作成者	

5. 補助事業の自己評価

(1) 総合評価

① 自己評価Ⅰ (事業終了直後に(2)個別項目の評価から実施状況の振り返り、事業全体を評価してください。)

事業全体についての意見・所感	全国統一テーマ及び管区連盟サブテーマ共に、宗教教諭において重要なことであるため、とても考えさせられる研修であった。今後も両テーマを意識して宗教教諭に取り組みたいなど、参加した教諭の宗教教諭に対する意欲が高まった研修会であった。 細かな点を見ると改善すべきところもあったものの、回答のあった無記名アンケートの約9割の参加者が満足又はやや満足と回答しており、現状に見合った実のある研修会を開催することができたと思われる。	
優れている点・課題、改善すべき点	【優れている点】 経験豊かな教諭の実践に基づく研究発表は、経験の少ない教諭は元より、他の経験豊かな教諭にとっても、自己の宗教教諭を見つめ直すよい機会となり効果的であった。 高松矯正管区長による講演は、矯正施設の実情がよくわかりよかったです、参加者に好評であった。 【改善すべき点】 実践発表については、自分の教諭の具体的な内容を発表していただいた方がよいと思われた。 実践発表では、あまり質問等が出なかったため、司会者から質問するなどスムーズな進行ができればよかった。	
その他アピールしたい点是非知ってもらいたい点	特記事項なし。	採点 4
② 自己評価Ⅱ (平成27年2月末時点で、(2)個別評価項目「事業の成果・波及」の状況を確認し、補助事業が最終的に目指すこと(社会的課題の解決等)の達成状況及び、今後の展望をご記入ください。)		
補助事業が最終的に目指すこと(課題の解決等)の達成状況及び今後の展望		

(2) 個別項目評価 (実施状況等を振り返り、個別に評価してください。)

①自己評価Ⅰ ②自己評価Ⅱ (個別の評価項目について、事前計画の達成状況等を把握し、分析・評価してください。)

①自己評価Ⅰ	管内矯正施設教諭85名の教諭のうち、31名の教諭が参加した。 比較的経験年数の若い教諭を対象とする研修会ではあるが、今後は、経験豊富な教諭にも積極的な参加を呼び掛けていきたい。 研修会参加者が増えることにより、宗教教諭の充実に繋がり、被收容者に対するよりよい宗教教諭が期待される。	採点 4
①自己評価Ⅰ	事業内容 平成26年7月17日(木)、高松センタービル(高松市)において、テーマ「今、教諭に願われていること」、サブテーマ「共鳴する教諭をめざして」と題して、平成26年度高松矯正管区教諭研修会を開催した。	
	事業の新規性または継続の必要性 参加者からは、「普段知り得ないさまざまな宗教の教諭実践について聞けてよかった。」「参考になるものでよかった。」「今後の教諭に生かしてしていきたい。」等の意見が挙げられており、継続して定期的に、社会情勢に見合った講演、他の教諭の実践等について学ぶ機会が必要であることが再認識された。	採点 4
	事業の発展性 参加者からは、「参考になる。」「感銘を受けた。」「勉強になった。」等の意見があり、参加した教諭の宗教教諭技術の向上に繋がった。	採点 4
	実施計画・体制 参加者からは、「もう少し会場がわかりやすければよかった。」との意見はあったものの、計画(事前準備)及び実施体制について充分であったとする回答が約9割であったことから、概ね良好であったと思われる。 また、講師の選定につき、「矯正施設の現状について説明をいただいたのはありがたかった。」「我々が何を狙うのかが見えてくるようであった。」「参考になるものでよかった。」等の意見があり、好評であった。	採点 4
達成目標	①自己評価Ⅰ 事業の実施結果 (達成地) 平成26年7月17日(木)に平成26年度高松矯正管区教諭研修会を開催した。 (達成状況) 100% (具体的内容) 平成26年7月17日(木)、平成26年度高松矯正管区教諭研修会を開催し、管内矯正施設所属の全教諭85名のうち、31名が参加した。 教諭3名から、研修テーマに沿った実践発表をいただいたほか、来賓の高松矯正管区長から「矯正の現状と将来像について～次の10年に向けた取組を中心として～」と題した時勢にあった演題の講演が行われた。	採点 4
	②自己評価Ⅱ 事業の実施結果	採点
①自己評価Ⅰ	情報発信 事業の結果 (達成地) 研修直後の情報発信はできていない。 (達成状況) 0% (具体的内容) 研修直後の情報発信はできていないが、本年度内に作成予定の記録誌を関係各所に送付することで、事業結果について情報発信していきたい。	採点 1
	競輪補助金による事業であること (達成地) 平成26年度高松矯正管区教諭研修会において明示した。 (達成状況) 100% (具体的内容) 会場立て看板及び参加者への配布資料に競輪の助成を受けて開催している旨を明示した。	採点 4
①自己評価Ⅰ	自己評価の体制 研修会翌日に、事業評価委員会を開催した。 事業評価委員会の開催に当たり、客観的評価に資するため、研修大会当日に無記名のアンケートを実施し、参加者から幅広い意見を求めた。	採点 4

別紙・JKA補助事業 平成26年度 事前計画／自己評価書(5/5)

(3) 事業の促進・阻害要因の自己分析 (①自己評価Ⅰに合わせて実施してください。)

- 事業の目標達成を促進した、あるいは阻害した要因について、「要因分類」(1)～(15)の「促進」又は「阻害」欄に「*」を記し、要因の内容を(a)欄に、阻害要因への対応あるいは今後この分析結果をどう活かすかを(b)欄に、それぞれの要因分類の番号(1)～(15)を付して具体的にご記入ください。
- 促進または阻害要因が無い場合には、(16)の欄に「*」を記入し、その理由をご記入ください。

	促進	阻害	要因分類	(a) 促進または阻害要因の具体的な内容	(b) 対応、今後の分析結果をどう活かすか。
内部要因	*		(1)経費	(1)会場の見直し等、運営に係る経費の削減を図ったことから、補助金の範囲内で会場借上料を賄うことができた。	(1)引き続き、経費削減しながら効果的な研修会運営を心掛ける。
			(2)実施体制 (人員、関係機関の協力等の確保)	(4)研修会の開催日程について、各教宗派によって本務の多忙な時期が異なるため、全教講師の参加は困難である。	(4)可能な限り早い段階で日程をアナウンスするほか、各教宗団の行事等と日程が重ならないよう調整を行う。
			(3)資材調達 (事業実施に必要な物資等の確保)		
		*	(4)実施期間 (事業終了までに要する期間)		
			(5)事業運営のノウハウ (進捗管理、資金管理等)		
			(6)設計仕様の変更 (主に建築)		
			(7)その他		
外部要因			(8)受益者の規模・ニーズ	(9)矯正施設の職員に多数出席していただき、宗教教諭について、より一層の理解を得ることができた。	(9)今後も積極的な参加を呼び掛けていく。
	*		(9)実施体制以外の団体等の協力・支援		
			(10)関連法制度の変更		
			(11)利害関係者(受益者以外)の要望への対応		
			(12)災害の発生(地震、洪水等)		
			(13)同様の技術開発		
			(14)競合するサービス・事業の出現		
		(15)その他			
		(16)			